

北海道における平成30年産雑豆の 生産状況について

(公財) 日本豆類協会

北海道庁では、営農指導を的確に行うため、5月15日から10月15日までの間、毎月2回、農作物の生育状況を調査した結果を公表しています。

以下に、各時点において公表された①気象概況と作物全般の生育状況、②小豆と菜豆（金時）の生育状況等について紹介します。

1. 気象概況

1) 5月後半

5月の後半は、寒冷前線や気圧の谷の影響でぐずついた日があったものの、期間を通じては高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多かった。5月全体としては、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並となり、高気圧と低気圧が交互に通過した影響で天気・気温の変動が大きい月となった。

2) 6月

6月前半の気象は、期間の始めは、高気圧の張り出しの中であって晴れて気温の高い日が多かったが、8日以降低気圧や気圧の谷の影響で雨の日が多く、気温も低く推移した。期間を通じて気温・日照時間は平年並、降水量は多く経過した。

6月中旬以降は気圧の谷や前線の影響で雨の降った日が多く、日照時間は少なく経過した。また、中旬は上空から寒気が流れ込み、気温が低い日が続いた。期間を通じて気温は平年並となり、降水量は極めて多く、日照期間は少なくなった。

3) 7月

7月前半の気象は、北海道付近に停滞している前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、全道的に雨の日が多くなった。また、寒気が流れ込んだ期間もあり気温は平年よりやや低く、降水量は多く、日照量は少なくなった。

7月後半は、高気圧の張り出しの中であって晴れた日が多く各地で真夏日や猛暑日を観

測した。7月全体としては、気温、日照時間は、平年並。降水量は多くなった。

2. 小豆と菜豆（金時）の生育状況等

1) 6月1日現在

小豆の播種は、ほぼ平年並に終了した。菜豆（金時）の播種作業については平年並に進んでいる。

2) 6月15日現在

小豆の草丈は平年と比較して「長い」、葉数は「多い」となっており、生育は平年並に推移している。

菜豆（金時）の草丈は「平年並」、葉数は「多い」となっている。播種作業は、やや早く終わり、生育は平年並に推移している。

3) 7月1日現在

小豆の草丈は平年と比較して「短い」、葉数は「少ない」となっているが、生育は平年並に推移している。

菜豆（金時）についても草丈は平年と比較して「短い」、葉数は「少ない」となっているが、生育は平年並に推移している。

4) 7月15日現在

小豆の草丈は平年と比較して「短い」、葉数は「少ない」となっており、生育はやや遅れている。

菜豆（金時）の草丈は平年と比較して「短い」、葉数は「やや少ない」となっており、生育はやや遅れており、開花も遅れる見込み。



きたろまん（8月10日撮影）

5) 8月1日現在

小豆は6月以降の天候不順により、草丈が平年と比較して「短い」、葉数は「少ない」となっており、開花もやや遅れている。

菜豆（金時）は出芽直後の低温とその後の天候不順により、草丈が平年と比較して「短い」、葉数は「平年並」となっており、開花はやや遅れている。



大正金時（8月10日撮影）